



□欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	スター精密(株)菊川工場ソリューションセンター新築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★
------	-----------------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7 / 5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.2 / 5		ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.9 / 5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7 / 5		がんばろう

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	内訳対応項目	
	得点	3.7
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming) ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①断熱材を強化し、外皮性能を上げている ④外壁:ガルバリウム鋼板:30年 ④天井:RW吸音板:30年、壁:VC:15年、床:タイルカーペット:20年 ④屋外露出ダクトにガルバリウムダクトを採用している ④給水:ポリエチレン管:B、汚水、雑排水:塩ビ:B、Eは不使用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPI _m =0.77 ⑨BEI _m =0.70 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪自動水栓などに加えて、節水型便器を主要水栓の過半に採用している ⑫躯体+LGS+仕上、OAPフロアを採用 ⑬ODP=0、GWP=50未満の発泡剤を用いた断熱材を使用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率79%	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.1 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 材料使用量の削減 2 2.1 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.2 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.5 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 2.1.6 ⑫ 有害物質を含まない材料の使用 3 3.1 ⑬ 消火剤 3.2 3.2.1 ⑬ 断熱材 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster) ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰耐震クラス	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design) ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑階高3.95m ㉒壁長さ比率0.142 ■室外環境(敷地内)対策 (㉓地域性・アメニティへの配慮)	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉓ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature) ■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上) ■敷地外環境対策 (⑵温熱環境悪化の改善)	Q-3 1 ⑵ 生物環境の保全と創出 2 ⑶ まちなみ・景観への配慮 3 3.2 ④ 敷地内温熱環境の向上 LR-3 2 2.2 ⑵ 温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	スター精密(株)菊川工場ソリューションセンター新築工事	階数	地上3F
建設地	静岡県菊川市	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年6月 予定	評価の実施日	2019年6月26日
敷地面積	3,075(仮想) m ²	作成者	相模 明
建築面積	1,545 m ²	確認日	2019年6月26日
延床面積	3,557 m ²	確認者	相模 明



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>制作機械メーカーであるスター精密(株)の企業イメージから、無機質で金属質な外観ファサードとしながら、断熱パネルを採用することで熱負荷に配慮した計画としている。また、緑に囲まれた菊川工業団地に位置することから既存の緑地を活かした計画としている。</p> <p>CASBEE静岡2016年版による評価結果</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。F☆☆☆☆建材を全面的に採用するなど空気質環境にも十分配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。補修必要間隔の長い外壁材、仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>既存の緑地を保存し、生物環境の保全に努めている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>自動水栓などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率を79%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された